



## 高次脳機能障害とともに「はたらき THE かり」の活動

ひと・まち社理事 池田敦子

### 高次脳機能障害とは

高次脳機能障害はようやく知られるようになってきた。TKK<sup>1</sup>のパンフレットでは「突然の交通事故、脳血管障害、心筋梗塞、重度の喘息、水難事故などによる低酸素脳症、感染症などの様々な原因で脳が損傷することによって生じます。症状は重複していることが多く、人それぞれの損傷部位によって、異なった症状が出現します。適切な専門のリハビリや訓練により改善が見込めるため、早期の家族の気づきや、周囲の理解が大切です」と解説している。具体的な症状は記憶障害、注意障害、遂行機能障害、半側空間無視、地誌的障害、失語症、失認症、失行症、そのため自発性の低下・固執性・依存性・ボーッとしている・感情のコントロールの低下・欲求のコントロールの低下など、社会的行動障害が生じる。

### 当事者による朗読劇

「はたらき THE かり」(以下ザカリ)は、人生の半ばで脳を損傷し高次脳機能障害になった人とその家族等の集まりの名称で総勢19人の会。毎月最後の土曜日、1回おきにリーディング(朗読)劇の練習とお楽しみ会を開いている。当事者は9人で年齢は30~50歳代、まさに働き盛りの年頃だ。

朗読指導は家族の一人で女優のOさん。朗読劇の目標は、上手に読めるようになることではなく、セリフの意味や心情など場面の背景を理解し声を通して表現することにあり、その評価を、一生懸命にやったその時点での達成感に置いている。演目は、オオカミとヤギの互いを信じる力と篤い友情を描いた『あらしのよるに』<sup>2</sup>。ザカリ結成は22年9月。10か月が経過し、来年の3月末に発表会をする目途で準備中。演じたい役を自己申告しキャスティングが決まったところであり、発表会が最高の到達点になるのだ。

### 連絡はグループLINEで

全体の運営・企画・実施は、家族3人とボラの音楽セアラピスト2人とOさん、池田が加わって世話人会を結成している。連絡は、混乱を避けるために①はたらきTHE かり(ザカリ本人たち)、②家族、③世話人、④あ

らしのよるに(Oさんとザカリ)の4つのライングループに分けている。特に「ザカリ」は連絡の域を超えて、画像やスタンプを駆使して、今日のご飯・グルメと値段と在処・今日見た花や景色等々で溢れかえり、一晩で2桁の通信回数が常である。

### 時にはピアカウンセリングの場

ある時、脈絡なくいきなり送られた大量の画像にやりとりが分断され話が通じにくくなったことがあり、困ったメンバーが送信者にアルバムの作り方を伝授して問題を解決していた。またある時は、生活保護を受給しているが生活費は厳しいとの話に、就労しているメンバーから友人の例として情報を示しながら「プライドにこだわらなければ働く場所は絶対あるから!」とのやりとりなどあり、図らずもピアカウンセリングの場となっていた。当事者間で感情をコントロールしながら社会性が芽生えていたのだ。

### セイフティーネットとして

ザカリの活動のベースには、ひと・まち社事務所と同居していたNPO法人VIVIDの事業として09年から毎月2回実施したミデイサービス<sup>3</sup>の朗読劇にある。毎日通える場所が欲しいとの利用者の声を受け、18年に法人として法に基づく就労継続支援B型事業所を開設し、区委託事業だったミニデイサービスは終了した。しかし、B型に通所できないミニデイメンバーが集まり、昨年ザカリを立ち上げた。取り残さない地域の支援活動は最終的なセイフティーネットであり、存在の大切さを改めて確認している。

<註>

- 1 NPO法人東京高次脳機能障害協議会(TKK-都内の29家族会が加盟している)発行 パンフレット
- 2 絵本『あらしのよるに』シリーズ全7巻(原作:きむらゆういち)講談社
- 3 中島八十一先生の『高次脳機能障害の勃興と将来展望』2023年4月20日発行(株式会社振興医学出版刊)に、VIVIDミニデイサービスプログラムが紹介されている

